

座長集約

聖マリアンナ医科大学病院 馬野 清次

第16回神奈川MRI技術研究会の企画1では栄共済病院・北里大学病院・東海大学病院の各施設におけるボースデルの使用方法的報告でした。

本製剤が“磁気共鳴胆道膵管撮影の消化管陰性造影”を目的として開発されたものであるため、各施設とも基本的にはそれに準じた使用をしているようでした。撮像方法はT2強調画像の3D及びAxial、Coronalを中心とし、症例に合わせて脂肪抑制併用T1強調画像やDWIの追加を行っているようです。

撮像の工夫としては、濃度調整（5倍希釈程度）をすることでT2強調画像において陰性・陽性のDual contrastとすること。それに対し、希釈することでT1強調画像における陽性効果が弱まることから原液を用い、その際T2強調画像においての陰性効果は半量（125ml）でも十分であるため投与量を減らせる。といった各施設での考え方の違い、検査法の違いを聞き大変興味深くありました。また鎮痙剤を用いて腹部MRI検査を行っている施設もありうらやましく思いました。

私自身使ったことのない造影剤であるため、今後使用の機会があれば参考にしたいと考えます。各施設講師の先生方、コメントを頂いた大阪医科大学附属病院の藤田先生まことにありがとうございました。